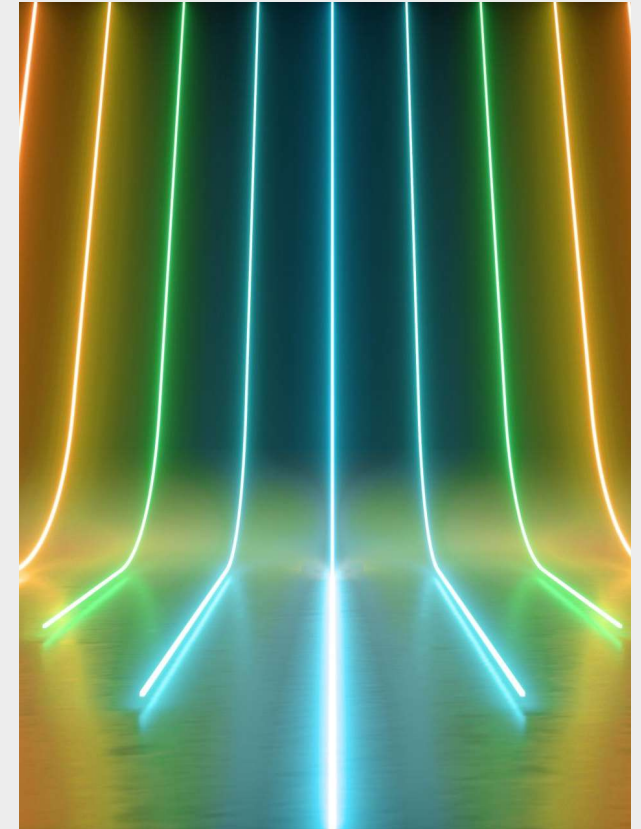

くまもとよかまちプロジェクト

～世代間交流を活用した新たなまちづくり～

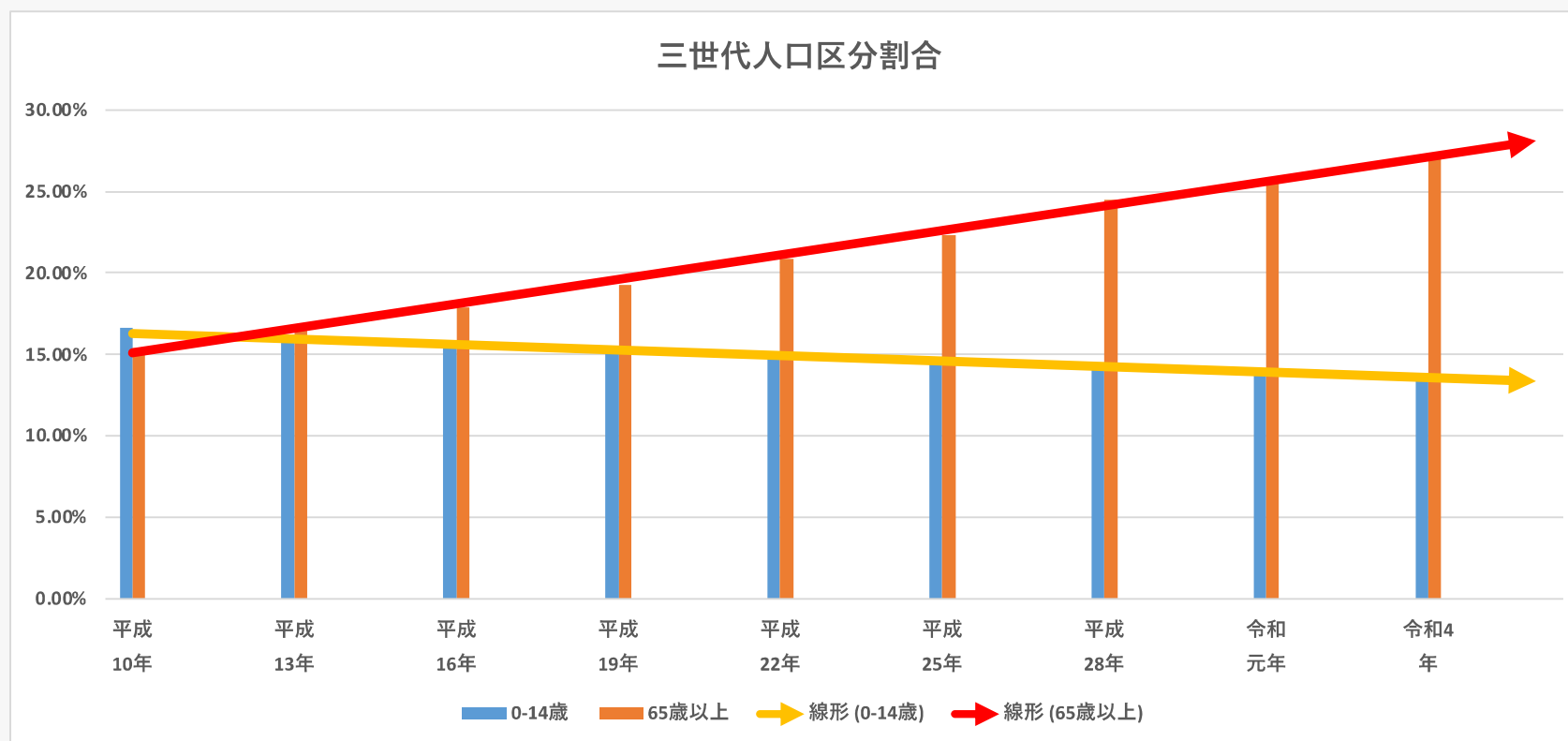
崇城大学 北区福祉グループ

渡邊 愛大 栃原 幸佳 前田 剛志 吉岡 レミ

木村 愛瑠 京田 七海 帖地 晃汰 前田 悠貴



熊本市の現状と課題について



上図 熊本市公式HP 人口統計より作成



熊本市の現状と課題について

現役世代の減少

税収の悪化

社会保障費の増大

自治体の財政逼迫



介護・医療費の割合

社会保障費内訳*H22 決算ベース

項目	事業費	うち市負担分	主なもの
1 総合福祉関係	25,038	8,470	生活保護費、民生委員活動費助成、社会福祉協議会運営費助成 など
2 医療関係	25,050	20,405	国民健康保険会計負担金、後期高齢医療会計負担金、乳児等医療費助成、障がい者医療費助成、病院事業繰出金 など
3 介護・高齢者福祉関係	9,130	8,796	介護保険会計負担金、高齢者移動支援(さくらカード)、公立老人福祉施設運営経費、養護老人ホーム助成(養護老人ホーム措置費) など
4 子ども・子育て関係	32,470	12,530	公立保育所運営経費、私立保育所運営費助成、子ども手当など
5 障がい者福祉関係	9,199	2,703	障害者自立支援関連経費、特別障害手当給付費、障がい者タクシー助成 など
6 就労促進関係	200	188	職業訓練運営経費、労働促進関係団体助成 など
7 貧困・格差対策関係	786	786	ホームレス支援、行旅病死措置費 など
合計	101,873	53,878	

総額の57%

要支援・介護の認定要因



全体の2割を占めている



左図：<https://onl.bz/T2yLKZA>より引用

右図熊本市東区役所作成資料より引用

<https://onl.bz/4hjftpv>

熊本市の現状と課題について

認知症患者：医療的支援＋社会的支援が必要

新型コロナウイルス感染症による人とのつながりの希薄化が加速

自治会・子ども会など地域コミュニティに属さない世帯が増加

弓削3町内自治会長様より自治会・子ども会の加入率改善の相談



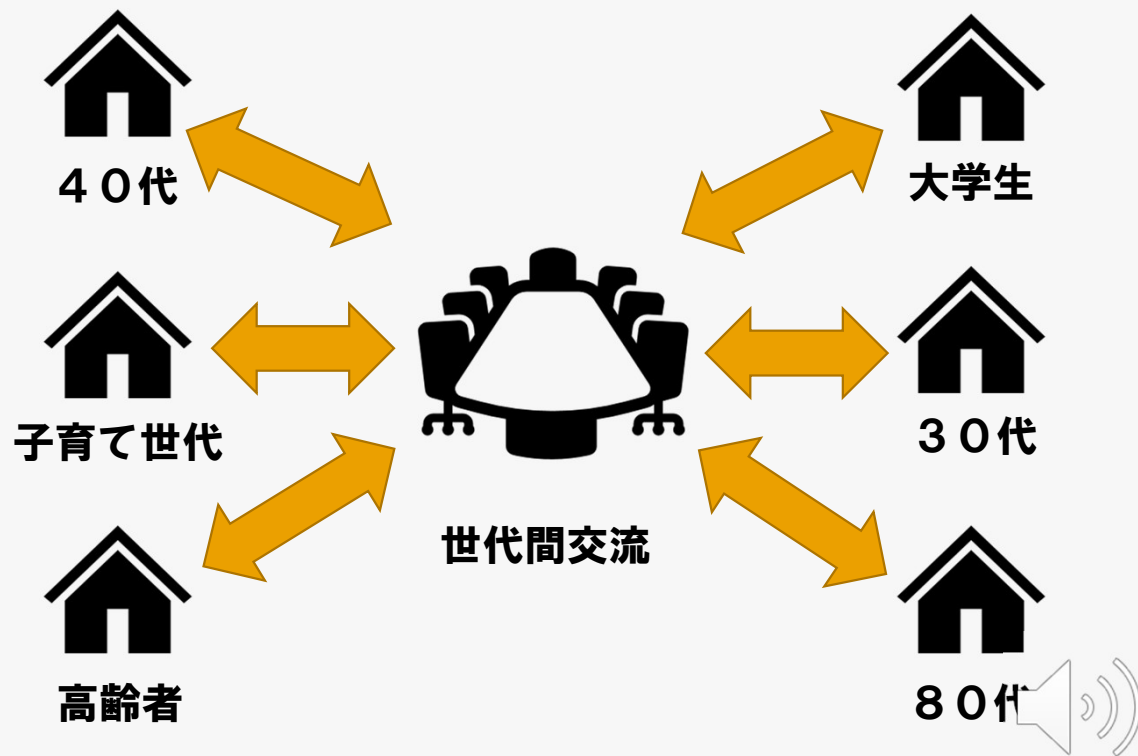
世代間交流の提案

従来の地域のつながり



そもそもつながりがない
(隣が誰かも知らない)

これからのつながり



世代間交流の内容

そろばん

昔あそび

囲碁・将棋

料理教室

宿題の見守り

こどもたちによるスマホ教室



世代間交流の狙い

社会的ネットワークが十分な高齢者は認知症の発症率が低い

そろばんは認知症予防に効果あり

デジタルデバイドの解消

子どもの態度・能力に自信をもたせる

おたがいさまでつながる地域



既存の取り組み

植木寺子屋塾

植木地域の8校区1地区で校区ごとに地域の交流が行われている

テーマ **～校区の魅力を子どもたちに知ってもらうこと～**

- ・参加者 校区の小学生 大人（自治会や保護者など）
- ・活動内容 稲刈り体験 料理教室 夏休みの宿題勉強会 校区ごとに様々
- ・課題点 **活動頻度が低い 大人が子どもに何かを体験させる活動が中心**



課題点を解決するために

活動の頻度を増やすために

管理・運営の負担を軽減・分散

効果を高めるために

参加者同士で教え合う仕組みづくりによって双方向での学びの場に

両者を実現するために

ICTツールの導入・セミピュアモデルによる活動



課題点を解決するために

ZOOM等のICTを用いた交流により規模や活動の幅拡大

パンデミックにも対応

活動の様子をリアルタイムで配信 安心・安全の確保



セミピュアモデルを用いることで

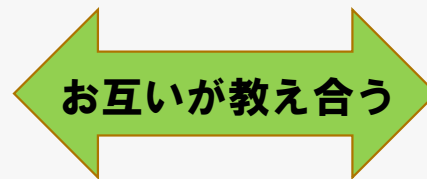
高齢者



子ども



講師が不要



Win-Winの関係に



期待できる効果

認知症遷延・発症予防

子どもの見守り

地域のつながりの強化



認知症予防に関する評価方法

認知症自己診断テストを期間を空けて複数行う

前回の結果との差異±5ならば認知機能維持○

認知症自己診断テスト



まとめ

世代間交流

- 認知症予防
 - DX人材の育成
 - おたがいさまでつながる
- 

よかまちくまもとの実現 